

砂防課長挨拶

長野県 建設部 参事兼砂防課長の林 孝標です。

NPO 法人長野県砂防ボランティア協会の会員の皆様には、平素から県の砂防行政に対し、格別のご支援、ご協力を賜り、この場をお借りし厚く御礼申し上げます。

昨年は3名の尊い人命が失われた岡谷市川岸東での土石流をはじめ、茅野市下馬沢川の土石流や長野市小松原の地すべり災害など、58件の土砂災害が長野県内で発生しました。諏訪地域では、砂防ボランティアの皆様にご協力いただき、土石流発生状況を把握するため砂防えん堤の緊急点検を行いました。点検の結果をもとに諏訪地域の避難体制を検討することができ、ご協力いただいた皆様にあらためて感謝申し上げます。また、熱海での不適切な盛土による災害を踏まえた緊急点検でもご協力いただき、重ねて御礼を申し上げます。令和元年の東日本台風、令和2年の7月豪雨と、近年では過去の平均を上回る土砂災害が発生しています。県では、これらの災害からのよりよい復興を目指して災害関連緊急砂防事業等による緊急的な施設整備を推進するとともに、国による「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を活用しながら、土石流・流木対策、既存えん堤の除石・補強、地すべり対策や急傾斜地崩壊対策などのハード対策に取り組んでまいります。

ソフト対策としましては、我が事として捉える住民の防災意識の向上を柱の一つとして取り組んでおります。会員の皆様には、防災教育の専門家“赤牛先生”として県内各地で講義を行って頂いており、講義に携わっていただいた方々にあらためて感謝申し上げます。昨年、一昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、講義数が予定の半分程度に減ってしまいましたが、更なる防災意識の向上を目指し、今年度は70回を超える講義をお願いしたいと考えております。

新型コロナウイルスについてはウィズコロナの時代へと変化しつつあるところであり、全国的にも、今までどおり感染予防を適切に行いながら、必要な活動は再開している状況です。6月の土砂災害防止月間に伴う危険個所パトロールにつきましても、今年度から再び砂防ボランティアの皆様の協力を得ながら行うこととなりました。赤牛先生の講義や、薬師沢をはじめとした砂防施設の維持管理活動なども、少しずつコロナ前の状況に戻りつつあると感じています。会員の皆様には、県民の安全・安心のさらなる向上を図るため、引き続き、ご支援・ご協力をお願い申し上げますとともに、ますますのご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

令和4年6月17日

長野県建設部参事兼砂防課長 林 孝標